

学院看護学研究科 博士後期課程		授業 科目	人間環境学特論 Advanced Lecture on Human Environmentology			担当 教員	笠松 隆洋 (専任)
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	共通基盤科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		<p>現代文明を支えるものは科学技術である。私たちは科学技術が生み出した多量の有用な化学物質の恩恵を受けて、日々の暮らしを営んでいる。その反面、化学物質によって健康被害や環境破壊がもたらされる例も少なくない。安心できる社会の実現を目指すためには、いかなる取り組みが求められているかについて講義する。</p>					
授業のキーワード		<p>主体-環境系、有害物質、生体反応、環境評価、環境リスク、環境保全</p>					
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
第1回	I 環境の概念						
第2回 ～ 第3回	II 主体-環境系（環境と主体との相互作用）						
第4回 ～ 第6回	III 環境把握の方法（有害物質と生体反応の対応性）						
第7回 ～ 第9回	IV 環境の評価方法（量-反応関係、環境リスク）						
第10回 ～ 第12回	V 健康リスクアセスメント（化学物質の安全管理に向けて）						
第13回 ～ 第15回	VI 環境保全対策（健康被害防止の法的規制）						
テキスト	<p>適宜プリントを配布する。</p>						
参考文献	<p>レイチェル・カーソン：沈黙の春（新潮文庫）、新潮社  武井勲：リスク・マネジメントと危機管理、中央経済社  市川定夫：環境学のすすめ（上・下）、藤原書店</p>						
成績評価の方法と基準	<p>授業への参加態度（20%）と課題レポート（80%）により評価する。</p>						
教員から学生へのメッセージ	<p>人間の生存と活動の基盤である環境を客観的に捉え、評価するための方策について考えるとともに、日常生活において惹起される様々な健康リスクについて考えることにより環境問題への理解を深めていただきたい。</p>						